
scream of the earth

クノウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

s c r e a m o f t h e e a r t h

【Nコード】

N 1 3 1 8 A

【作者名】

クノウ

【あらすじ】

地球の、叫び。

『今日、僕の体の上で大きな争いが始まった。』

五十年以上前にも大きな争いが起きたけど、あの時は痛かった……
今まで小さな痛みを感じることもあったけど、あの“核爆弾”という物と今回は違っていた……

「ち……せ……？」

「……ごめんね、シュウちゃん…… あたし……こんな体になっちゃった……」

私は兵器になってしまった。

理由なんて知らない。

ただ、気付いたらこんな体になってた。

簡単に車を破壊できた…… そして戦車も…… 戦闘機も…… 大

きな船だって……

どんどん強くなっていった。

あたしの一撃で戦いが終わった……

……

……

……

……

……

……

……

……
。

ドオ——ン……………

『痛い…… 痛いよ…… みんな、もう止めて…… これ以上されたら僕は壊れてしまう…… なんてみんなこんな事をするの?』

「ちせ小隊長、ご苦労様でした。次の出勤は明朝になります。詳しいことは追って伝えますのでメンテナンス終了後は部屋の方で休んでいてください。」
「はい…… 分かりました。」

今日は中東の方に“お仕事”に行った。
この兵器の体になってからどれくらい経っただろう?
初めの頃はこれほどの力は無かった。
でも、戦う度にどんどん強くなっていく。
そしてもう一人の自分を抑えられなくなる……

今日も抑えが効かなくなってしまった。
気付いたら、周りは何もない…… 一人ぼっち……
街が消えてしまっていた。

「シュウちゃん…… 会いたい…… よ……」

戦場では私は一人ぼっちだった。
仲のいい人もできたけど、みんな死んでしまったか別の場所へ移動してしまった。

それに、みんな私の事を怖がって近づこうともしない。

あたしは何でこんな事をしてるんだろう？
あたしが生きてる意味ってあるのかなあ？

でも、あたしが戦うことでシュウちゃんを守れているのなら、それは嬉しいな……

戦場であつたあの人も、そんな事を言ってくれた。

o

ズズ
——
ンツ
！

「痛いよ…… もう僕は傷つきたくない…… でも、僕の体はもう耐えられなかった。 だから崩れた…… 仕方ないんだ。」

今日は地震が来た。
大きな地震だった。

あたしは誤作動しそうになったけど、シュウちゃんが助けてくれた。

こここのところ地震が多い。

小さな地震も多く、今日みたいな地震だって起こっても不思議じゃなかった。

「ちせつ。 行くな、ちせ！ 行くな！」

「ごめんね。 もう行くね。」

.....

「今夜..... 展望台に来てくれ！ オレ..... 待ってるからさ！」

辛かった

シュウちゃんが言ったことは、あたしの胸に深く突き刺さったからあたしだって、この体にされた時は何がなんだか分からず、周りの人を恨んだりした

でも、少しだけ..... 少しだけ良かったって思えるのは、この街を守ることに。シュウちゃんを守ることにだった。

だから、もっと強くなりたい。もっともっと強くなって、みんなを守るようになりたい。

..... 今日、シュウちゃんと別れた.....。

.....

.....

○

ゴオオオオオオオオ

「寒い…… 何でこんなに寒いんだ？ この前まで、僕の体はとっても熱かった。でも、最近になって突然寒くなりだした。僕の体はどうなってしまったんだろう？」

「こんな女でも、好きかい？」

嬉しかった。あたしもまだ、シユウちゃんのこと好きだから。
でも、あたしたちはもう“クラスメイト”だ。クラスメイト……
クラスメイトだ。

「あんた達も頑張ったね、ゆっくりおやすみ。」

猫が死んでいた。

シウちゃんがあげた牛乳だけでは体が持たなかったのだらう、この寒さで子猫は死んでしまった

精一杯生きようとしたのに……
もっと生きようとしたのに……
誰が悪いわけでもないのに……

そしてあたしはこの街を去った。戦場に行くために

戦場では、クラスメイトの顔を見た。
彼も死んでしまっただろう。

もうじきまた戦いが始まるから。

あたしが戦うから。

今のあたしには、それが分かった

……

……

……

……

……

……

……

……

。

ズズズズズズズズズッ!!

『痛い! 痛いよ!! 僕の体の上でまた爆発が起こった。とても大きな爆発だ。なんでこんなことするの? これ以上は

僕の体ももたないよ……」

「……始まるな…… おフロ入んなきゃ……」

戦いが始まった

あたしの感じた通りだった

あたしが寝てる間には地震もあつたようだ。

親友の生体反応が消えていた……

あたしはあの人に会いに行った。

「ふゆみ…… 苦しい…… 痛い…… ……もういやだ。いや

だ…… ……殺して…… 殺してくれ…… ふゆみ……」

あの人は、最後まであたしの名前は呼ばなかった。

その代わりに、自分の最も愛しい人の名前を叫びながら逝った。

あたしは、あたしの出来る事を……

また街が…… 都市が一つ消えた。

いつからだろう？

あの“声”が聞こえてくるようになったのは。

あたしには分かる。

もうこの星は限界に近づいている……

みんなは気付いていない。

気付いていても気付かない振りをしている。

今戦いが終わっても、この先にあるのは……

「ああ、もうあたしの一生は幸せばかりじゃないんだ……」

現実残酷だ

もうすぐ。

もうすぐこの生活も終わる。

薬のないあたしは、体を維持出来ない。

それに、この街も戦いの場になる。

みんな死ぬ……

そして、死んだ……

……

……

……

……

……

……

……

……

。

『ウウ……

ウウウ……

苦しい……

もう……

僕は……

…… ああ……

…… あああああー！ー！』

「生きてます。　ちせは、まだ、生きてます。」

“ちせ”は死んだ。死んだはずだった。

でも、生きてる。いや“稼動”している。

そして敵と戦う。

このごろははつきりとあの“声”が聞こえる。

この星の声。叫び声。

もう限界。あと一月もしないうちに、あの子は終わりを迎える。

でも、その前に大きな――最後の戦いが始まる。

「オレが、ちせの彼氏だからだ。　ちせがオレの彼女だからだ！」

ああ……

嬉しい。

そして悲しい。

あたし、今でもシュウちゃんのことを好きだ。好きで好きでたまらない。

いっぱいキスした。SEXだった。

でも、本当は死んで楽になりたかった。

あのまま死んでしまえばどんなに楽だったか……

『でも、現実には、恋はあたしを楽にはしてくれなかった。生きて、最後まで戦えと、エッチの……快感まであたしに与えて、最後まで恋をしろと。』

赤い朝焼けと共に最後の戦いが始まった。

それと共に起きる大地震。

逃げ惑い苦しむ人々

そんな人たちに苦しむことのないように一瞬で終わりを与えた。

Gooooooooooooo

「ありがとう……」

「これで楽に……」

……。

星の声が小さく、そして聞こえなくなっていた。それが、最後のお仕事だった。

終わり

（後書き）

< font size="2">思いつきのまま、書きたい事をつぎ込んで書いてみました。話としては最彼の単行本、一卷ずつ進む形式です。

読む人によつては意味不明なSSかもしれませんが、地球が減るまでの過程とちせ心情を自分なりに表現してみました。

ちなみに主人公は“地球”です。

このSSを読んで、何かを感じてもらえれば幸いです。 < / font
t >

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1318a/>

scream of the earth

2010年10月11日21時30分発行